

# 地域日本語教育の専門家って何するの？

—地域日本語教育スタートアッププログラムの実践から—

地域日本語教育スタートアッププログラム  
シニアアドバイザー  
西原 鈴子

# そもそも「専門」って何？

- ・職業名で専門が分かる？
  - 弁護士は法律の専門家？
  - 教師は教育の専門家？
  - 電車の車掌は鉄道の専門家？
  - シェフは料理の専門家？
- ・職場の所属で専門が分かる？
  - 〇〇会社総務部/人事部/経理部/営業部
  - 〇〇病院外科/内科/眼科/皮膚科/放射線科
  - 〇〇デパート紳士服売り場、食品売り場、外商担当
- ・その道のプロってどんな人？
  - スポーツ:ゴルフ・テニス・水泳・野球・サッカー……
  - 芸術:音楽・美術・舞踊・文学……
  - 技術:建築・造園・工業技術……
  - 伝統工芸:漆芸、織物、染物、ガラス細工、刃物……

# 専門家ってどんな人？

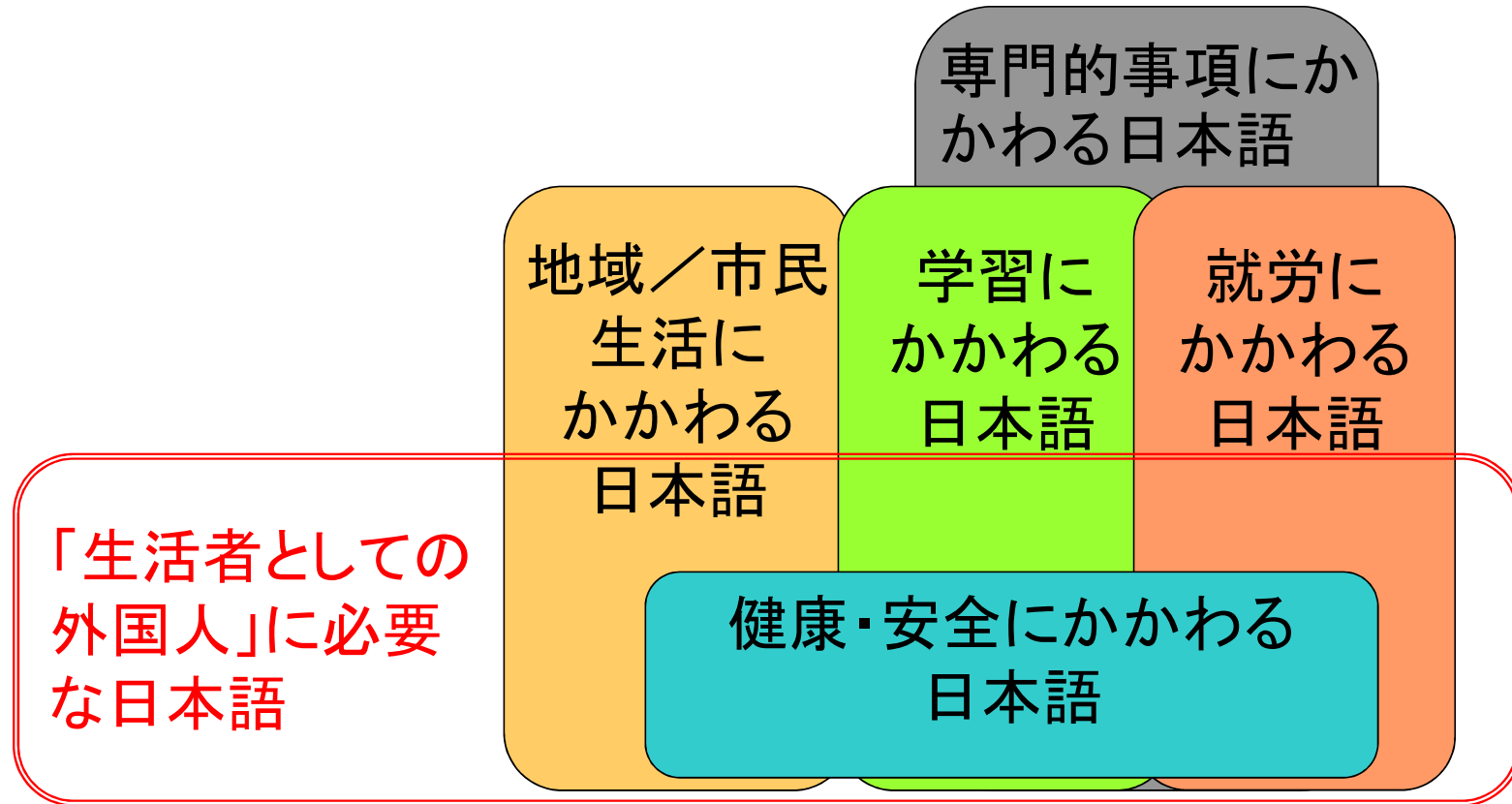
- ・名刺に肩書があれば専門家？
- ・資格試験に合格していれば専門家？
- ・その道で生計を立てられれば専門家？
- ・世間から認められれば専門家？
- ・専門家かどうか自問自答できる？

# つまるところ大切なのは・・・

- ・「専門家」であること、そのように認められること自体ではなく、  
社会生活の現実的側面で「必要とされることが十分にできること」
- ・「専門家」であるという肩書よりも、「専門的資質」を持つこと
- ・ボランティアは社会参加の仕方である。有償・無償が問題なのではなく、与えられた状況で必要不可欠な働きができること
- ・一人で万能なアポロ的天才はいない。協働の中で、期待に応じる  
資質を持つことが肝要

# 「生活者としての外国人」に必要な日本語の 位置付け（イメージ）

---



## 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の 目的と目標

---

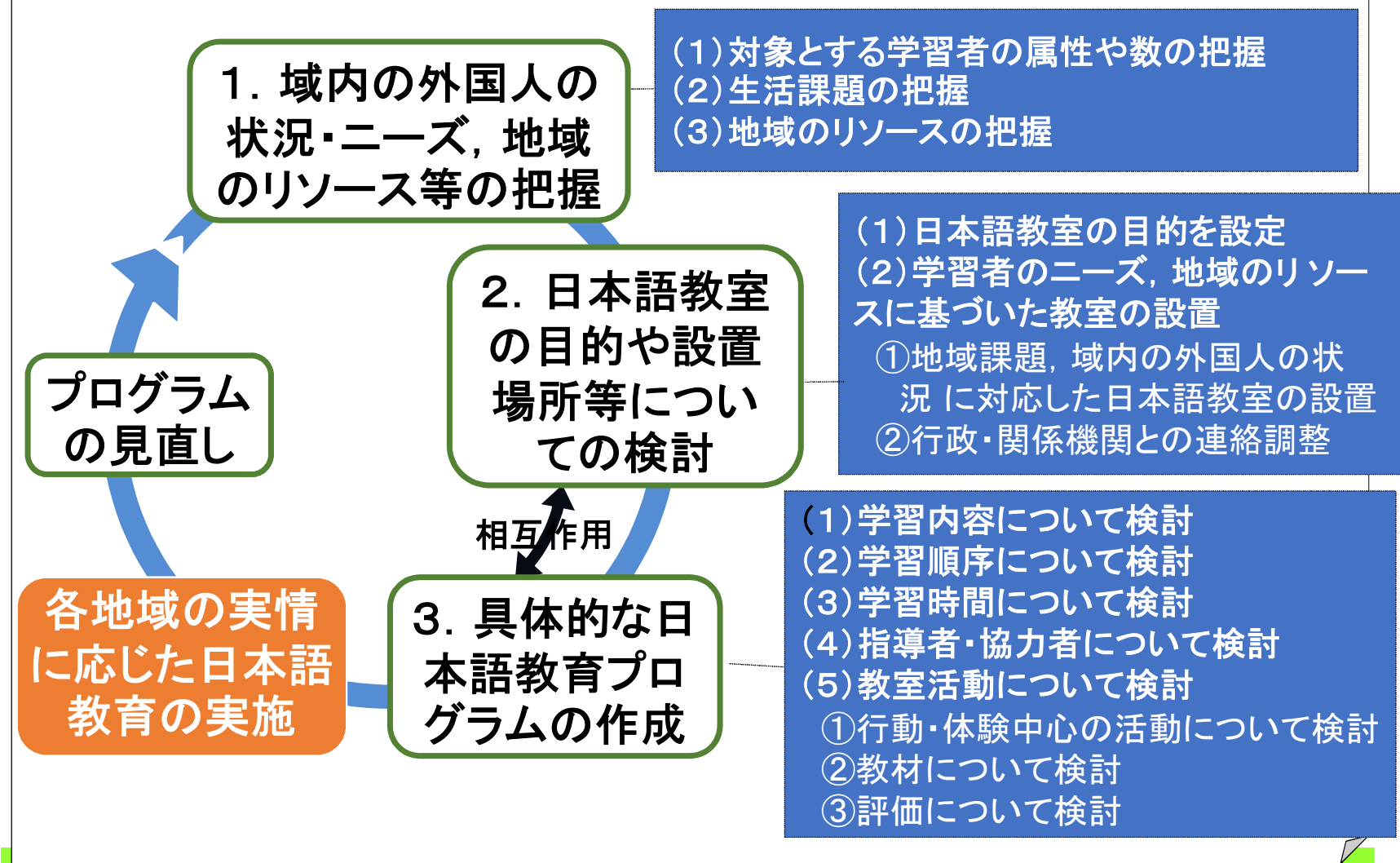
### 目的

外国人が日本語で意思疎通を図り生活できる  
ようになること

### 目標

- ①日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
  - ②日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
  - ③日本語を使って相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
  - ④日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること
-

## 【日本語教育プログラム作成手順】



# 各段階で必要とされる資質(1)

## 段階1

- 情報収集力
- 調査力
- 報告力

## 段階2

- 情報分析力
- 企画力
- 交渉力
- 調整力(コーディネート力)



# 各段階で必要とされる資質(2)

## 段階3

- ニーズ・レディネス分析力
- カリキュラム設計力
- シラバス設計力
- 対学習者クラスルーム実践力
- 教育評価力
- 対学習者カウンセリング力
- コーディネート力

# 各段階で必要とされる資質(3)

## 段階4(見直し・修正・改善)

- プログラム評価力
- 改善案作成能力
- 協調力
- 調整力(コーディネート力)
- リーダーシップ

# シニア・アドバイザーの仕事

- 文化庁国語課の意図と地域の企画の整合性を確認する役割
- それぞれの地域に立脚した企画の顧問としての働き
- 第三者的立場からのプログラム評価
- 地域の行政、公的機関、住民へのプログラム広報
- 「社会統合」「新規参入者のエンパワメント」「受け入れ社会による多様性の肯定的理解」を柔らかくアピールする
- ご挨拶要員

# 参考情報

- ・スタートアップ・プログラムの「アドバイザー」および「シニア・アドバイザー」の役割は、先行する自治体のプログラムでは「プログラム・コーディネーター」の役割となっている。
- ・したがって、文化庁のスタートアップ・プログラムの3年次が終わると、アドバイザーの仕事は、その地域の「プログラム・コーディネーター」の仕事として引き継がれていくことになる。